

平成24年6月12日付「産業技術大学院大学に対する提言」への回答について

平成24年8月1日
産業技術大学院大学
管理部管理課長

No	分類	提言項目	提言内容	回答
1	広報	多様なメディアによる広報活動の実施 (例:雑誌への特集記事の掲載)	・宣伝の多様性の必要性。 →現在、りんかい線のつり革広告等の大学近郊の展示媒体でのみしか宣伝ができていない。 →全国各地の各種大学、官公庁、企業への宣伝によって首都大学東京の高度専門職育成の教育機関であることをアピール。 →社会人にとって学校を選ぶことは非常にしんどい。まとまって紹介(ex.ダイヤモンドオンライン)されているものを読んだ時に、自分のニーズと合致していたら決定する(ex.仕事しながら通える)。	広報計画を策定する中で、参考にします。
2	広報	学生と教員の意識のギャップをなくす広報の実施	・時代の最先端のことを行っているのでは、という入学前の学生の感覚と教員との意識の乖離をなくす。	提言趣旨について改めてお伺いした上で、広報計画を策定する中で、参考にします。
3	広報	新卒学生を確保するための卒業後のキャリアモデルの明確化とアピール	・新卒学生があまり本学を受験しない理由。 →新卒学生の囲い込みには社会人に見えるメリットよりも、より深い理由が必要(ex.就職先の斡旋)。新卒学生は卒業後の進路を踏まえて、自分を成長させるための学習環境を求める傾向がある。 →卒業後の進路(未来)が見えない。卒業生が何をしているのかわからない。	提言趣旨について改めてお伺いした上で、広報計画を策定する中で、参考にします。
4	広報	優秀な教員の存在のアピール	→優れた教員がいるのに、それを外部にアピールできていない大学院側に原因がある。時代のニーズとして、学部新卒学生の大学院への進学率が高くなっている。	広報計画を策定する中で、参考にします。
5	広報	仕事を持つ社会人にとって有意義な制度(科目等履修生、長期履修制度等)のアピール	・事務局側と教授側との新入生に対する意識の乖離。 事務局側→本入学の学生を増やしたい。確実に入学してくれる新卒学生を増やしたいという希望がある。 教授側→社会人約8割、新卒学生約2割という学習環境にしたい。説明会の全ての出席者に対して正規入学を求める傾向がある。これは社会人のニーズに合致していない。社会人学生は仕事を優先させなければならず、学業は二の次である。科目等履修生という選択肢があり、自分の仕事との兼ね合いを観ながら学業をすることができるということも強く宣伝することが大切。長期履修という方法もあり、自分に合わせた選択肢があることを強くアピールすることが重要。	広報計画を策定する中で、参考にします。
6	広報	オープンキャンパスで研究内容を公開するなど、地域に対してアピール	・地域に対してオープンにする必要性。イベントの重要性。 →大学院の評判が見えない。魅力に乏しい。オープンキャンパス等のイベントで研究内容を示す必要。	広報計画を策定する中で、参考にします。
7	カリキュラム	専攻の細分化	・専攻の細分化 →特に情報アーキテクチャ専攻はいわゆるソフトウェア開発／ネットワーク系の授業のみとし、マネジメント／ビジネス系は別専攻にした方が良いのではないかと考えられる。一つも同じ授業にならない学生同士もおり、同じ専攻で学んでいるとは思えないためである。	専攻の学生定数と教員定数の比率が法で定められており、また、運営諮問会議参加企業との意見交換や調査を通じて最適なカリキュラムを常に検証していますので、現状では専攻を細分化する必要性は高くないと考えています。
8	カリキュラム	プログラミング実装講義の必修化	・情報アーキテクチャ専攻は、プログラミング実装の授業を必修科目した方が良い。	カリキュラム見直しの中で参考にします。
9	カリキュラム	プログラミング実装講義の上位コース設置	・プログラミング実装に関する、より高度な上位の授業をしていただきたい。	カリキュラム見直しの中で参考にします。
10	カリキュラム	ITトレンドに特化した講義の実施	・クラウドコンピューティングが急速に広まっていて、ある主のパラダイムシフトが起きている。現在はクラウドが急速に普及しているが、このようなトレンドに関する講義を毎年開講するとよいのではないか。	現在のカリキュラムにおいても、時代のトレンドを反映しており、平成24年度新設科目のうち、7科目はクラウド・情報爆発関連の科目となっています。 また、InfoTalkにおいてもこれらの話題を扱っていますので、ぜひご参加ください。
11	カリキュラム	PBLへの外国人枠の設置	・各PBLに最低1枠、外国人枠の設置 →特定のPBLに希望に添えなかった溢れた外国人同士が固まってしまい、何のために日本へ留学したのかわからなくなる。	所管において検討します。

平成24年6月12日付「産業技術大学院大学に対する提言」への回答について

平成24年8月1日
産業技術大学院大学
管理部管理課長

No	分類	提言項目	提言内容	回答
12	カリキュラム	休業期間中の短期集中講義の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・集中講義の実施 →特に社会人学生の多い情報アーキテクチャ専攻に、長期休暇の間に集中講義を実施していただきたい。 専任教員の方は講義以外にも仕事があるため、8、9月には若手の非常勤講師を中心とした集中講義を組んでいただけないかと思います。週6コマ～8コマで2週間～2週間半で終わるような集中講義があれば、通常の講義の補填や更なるスキルアップに繋がると考えられます。 	短期間での集中講義については、履修が困難な学生も一定数存在することが想定されるため、現在のところ実施の予定はありません。
13	カリキュラム	講義の追加 (セキュアネットワーク構築、インフラ系)	<p>(6) 講義の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報アーキテクチャ専攻におけるインフラストラクチャー系(以下インフラ系)の講義の充実化 「セキュアプログラミング技法」が開設されるのであれば、ファイアウォールや侵入検知装置などを使用した「セキュアネットワーク構築」の講義をしていただきたい。 また、プロジェクトマネジメントやその他の講義でも基本的に「システム開発のSE」側の講義が多いため、1~2個インフラ系の講義をしていただきたい(ex.インフラ構築に特化したプロジェクトマネジメントの講義)。 	カリキュラム見直しの中で参考にします。
14	カリキュラム	講義の追加 (1年次に履修可能なアジャイル系)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報アーキテクチャ専攻におけるプロジェクトマネジメントでアジャイル系の講義の実施 2年次のPBLではアジャイル(中鉢先生)のものがあるのに対し、1年次の講義では存在していないため、可能であれば開設していただきたい。 	カリキュラム見直しの中で参考にします。
15	カリキュラム	語学力強化のための英語での講義の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育の実施 →将来世界で活躍する人材を育成するためにも、英語教育を積極的に行うべきである。ネイティブスピーカーの講師を招いて、実際にコミュニケーションがとれるような講義を行う必要性がある。英語を学ぶのではなく、英語で学ぶ授業の実施(一部授業の英語化)。 	ネイティブスピーカーによる英語での講義は、現在のところ実施予定はありませんが、将来的な検討課題と認識しています。 また、語学力の強化としては、平成24年度より、e-ラーニング教材を導入しておりますので、ご活用ください。
16	カリキュラム	2回／週実施の講義は、同一时限に行い、年度毎に5限と6限の講義を入れ替えてほしい。	<p>(7) 授業カリキュラムの年度毎の改定について</p> <p>例として、創造技術専攻の場合、本学の授業は同じ授業が週2度ある場合、1回目の授業は5限であるが、2回目の授業は6限という場合は社会人は履修するのが難しい。6限目の授業は出席することができるが5限目の時間帯は本学への通学時間も考慮すると、仕事が忙しい社会人の場合は出席率がどうしても50%近くになり、単位を落としてしまう。結果として中退する人も出てくる。</p> <p>解決策としては、週2回の授業を同時限に行い、年度毎に5,6限を交代で回して授業を開催する。また、社会人は平日昼間の講義は出席できないので、この時間帯に開講している授業を土曜日の1~6限までの時間帯に当てはめて、講義への出席を促す。</p>	極力要望に添えるようカリキュラム改訂時に反映します。
17	履修制度	長期履修の申請を複数回可能とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・長期履修の申請タイミングと、長期履修から通常履修期間への変更について →3年履修の申請タイミングであるが、入学直後の5月に判断するのは少し厳しいと感じる学生が多数存在している。このことから、2回目の申請のチャンスがあればいいと思われる。 	本学の長期履修制度では想定していませんでしたが、他大学の状況や関連する法を調査して本学にふさわしい対応を検討していきます。
18	履修制度	長期履修から通常履修への変更を可能とする。	また、一旦長期履修を申請しても当事者本人の予想を上回るペースで単位修得が進んだ場合、通常の2年履修に申請し直すことができる制度を設けていただきたい。	本学の長期履修制度では想定していませんでしたが、他大学の状況や関連する法を調査して本学にふさわしい対応を検討していきます。
19	キャリア支援	就職支援体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・学業に専念するために仕事を辞める人もいることから、そのような人へのきめ細やかなバックアップの必要性(ex.中途採用の斡旋) 	現在も重要課題として取り組んでいますが、キャリア開発支援体制の更なる強化を検討していきます。
20	入学試験	入学試験における英語科目の導入	<p>これからの高度専門職人材の活躍が求められるフィールドを考えると、国際舞台で通用する実践的な英語コミュニケーション力が身につくプログラムが必要になります。</p> <p>ビジネスシーンにおける英語の使い方とビジネスコミュニケーションスキルの向上を目指すことが求められますが、様々な国籍を持つ人々との円滑なコミュニケーションを実現するためにはそれぞれが異なる文化背景を持っていることを認識し、理解することも重要です。</p> <p>その前提として、今後のエンジニアには必要不可欠な能力のため入試での英語力を問う内容が必要であるかと思われます。</p>	長期的な視点で検討していきます。

平成24年6月12日付「産業技術大学院大学に対する提言」への回答について

平成24年8月1日
産業技術大学院大学
管理部管理課長

No	分類	提言項目	提言内容	回答
21	学修環境	夢工房設置のパソコン台数追加	(3) 本学設備の増強・改善 ・夢工房におけるパソコン台数(MAC, Windows共)が不足している。最低でも現在空いている座席分のパソコン台数の設置は必要不可欠である。優先順位としては、初めにMACの台数を増やしてほしい。	必要な環境を調査したうえで、不足しているものについては、整備していきます。
22	学修環境	デザイン環境の整備 (レンダリングソフト、ペンタブレット等の追加)	・本学はデザイン系の教員、学生が多いことが特色であるが、デザインをする環境が整っていない。 →デザイン関連企業に就職を希望する学生は、通常就職活動を行う際にポートフォリオ(自らがデザインした作品集)を作成しなければならない。本学にはポートフォリオ作成の際に必要なレンダリングソフトやペンタブレット等の物品が不足しており、母校の大学に戻って作品製作を行っている学生もいる。このことは、本学の理念として矛盾していると考えられる。デザインをするために必須のものについては、早急にその環境を整えていただく必要性が生じている。	必要な環境を調査したうえで、不足しているものについては、整備していきます。
23	学修環境	PBL週報の入力方法の改善	・PBL週報の入力方法の改善 →iPBLでの週報入力が大変やりづらい。時間ばかりかかってPCを使用して週報を提出している意味が見出せないため、早急に入力方法を改善していただきたい。	平成24年度中の改善に向けて、検討しています。
24	学修環境	ソフトウェアの使い方について、講習会等の実施 (例:CATIA)	(5) 学習支援 ・本学のPCにインストールされているソフトの講習会の実施 →新たなスキル習得のバックアップを大学院側が積極的に行うべきである。マニュアルが売っていないソフト(ex.CATIA)もあり、専門の講師を招いて教えてもらわないと使い方がわからないものがある。	CATIAについては、講義の中で操作説明を行っているため、必要であれば講義を受講してください。 その他のものについては、今後調査していきます。
25	学修環境	講義ビデオをオフラインでも視聴可能にしてほしい	・オフラインにおいても講義ビデオを聴講可能にしていただきたい →不正防止のためのガイドラインやシステムが必要となることが前提ですが、講義ビデオをオフライン時でも聴講可能にすることで、学習の幅が広がる(ex.通勤時のビデオ学習)。	著作権などの問題を含めて、実施可否を検討していきます。
26	学修環境	履修していない科目の講義ノートの閲覧	・履修科目以外の講義ノートの閲覧を可能にしていただきたい →履修をしている講義の他に同時間帯の履修したい講義と重なってしまい、学習したいのにこの講義ノートを観ることができない。このような学習意欲が旺盛な学生のために、できれば履修をしていない講義のノートも閲覧させていただきたい。 Ex.「東京工業大学」様の講義ノートが掲載されているホームページのURL http://www.ocw.titech.ac.jp/	著作権などの問題を含めて、実施可否を検討していきます。
27	施設	夢工房、257及び259自習室、286PBL室の24時間開放 (少なくとも週末)	(2) 入試等の特別な事情がない限り、週末を含めた学校施設の24時間開放 夢工房(工作室、塗装ブースを含む)、自習室(257-259室)、PBL多目的室(286室)は少なくとも週末を特別な事情がない限り、24時間開放にして頂きたい。	学生証等による入退室管理の仕組みと併せて検討します。
28	施設	図書館の開館時間延長 (夜間、休業期間中)	また、図書館に関しては貸出等の事情があるため24時間開館は難しいと考えられるが、休業期間中の開館日数、時間(主に夜間)を延長してほしい。	休業期間中の開館時間の延長については、今年度の8月から実施予定です。 また、平日についても、10月からは23時までの延長を調整中です。
29	施設	時間外施設申請手続きの簡素化	現在の大学院の体制は、自由に創作活動をする環境が整っていないと考えられる。時間外や休日の使用は事前に申請書を提出しなければならず、急な用事の際には夢工房の利用ができない。どうしても必要であれば、時間外利用申請の手続きを簡素にしてほしい(グループウェア利用等)。 本学は社会人が半数以上を占めており、グループワークが多いことも特徴の一つである。本学の施設を利用しながらできないことも多く、時間的な制約があるとさらに社会人は学習をする時間と場所が限られてしまう。大学院とはかなりオープンな環境で研究や学習を促進する環境がなくてはならないと考える。 セキュリティに関しては、現在出入口がタッチパネル式ナンバーキーシステムのため、必要最低限のセキュリティは維持されていると考えられる。	実現に向けて検討します。

平成24年6月12日付「産業技術大学院大学に対する提言」への回答について

平成24年8月1日
産業技術大学院大学
管理部管理課長

No	分類	提言項目	提言内容	回答
30	施設	24時間開放した際のルール策定	<p>また、事故や火災が起くるものは、本学の夢工房(工作室、塗装ブースを含む)には他大学の環境に比べて少ない。事故や火災が起きそうな物に関しては別途ルールを定めていただき、積極的な利用促進を進めていかなければならない。</p> <p>また、本学の施設を自由開放すると寝泊りする人がいるのではないかという指摘に関しては、ある一定のルールを設けて自由に使用できる環境整備を優先することが重要である。学生は効率的に物事を進めることを周囲の社会人から学ぶことで、無駄に寝泊りする人はいないと思われる。</p>	施設の24時間化等の実現時には別途ルールを定めます。
31	施設	354教室の配線の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・教室のパソコンの完全なフリーアクセス化 →床がフリーアクセス(354教室)になっているにも関わらず、パソコンの配線が床上に置かれている。 使用中に配線が足に引っ掛かり抜けることで、様々な故障が頻発している。 	早急に対応します。
32	施設	ものづくり環境の整備 (高専設備の共同利用、夢工房の施設拡充)	<ul style="list-style-type: none"> ・産業技術大学院大学として、ものづくりをする環境は最高の質・量共に揃えていなければならない。 →高等専門学校と校舎が同じであることから、施設の共同利用の促進。高専の施設は教育を行う上では魅力的である。例えば東京大学では最先端の設備があるが、それは特定の研究室が保有していて一般の学生では使えない。本学の特色としてスキルを身に付けるには高専のものづくりをする環境は一中小企業に匹敵する環境であり、学生としてかなりの魅力を感じる。 それが困難な場合は、夢工房の施設の拡充が望まれる。 	具体的に利用する施設を特定したうえで、高等専門学校側と調整します。
33	施設	休業期間の自習室利用可能時間の延長 (通常期間と同等程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設環境の向上、施設利用の低敷居化 →休業期の自習室の利用可能時間を通常期と同じにしてほしい。 	学生証等による入退室管理の仕組みと併せて検討します。
34	施設	PBL室の利用について、教員の承諾を不要とする。	→PBL室の利用に教員の承諾を不要としてほしい。1年目の学生には教員に頼みづらい。	適切な施設管理の観点から、従来通りのルールを継続します。
35	施設	サーバ室について、講義を履修していない生徒も利用可能とする。	→授業を履修していないくとも、サーバ室が使われていない期間はサーバ室の利用を可能としてほしい。	現状においても、学生からの希望があれば、講義に差支えない範囲で利用可能です。
36	施設	プロジェクタのある教室を勉強会で利用したい。	→土曜日の4限後等、プロジェクタのある教室を学生の勉強会実施のためなどに使わせてほしい。	現状においても、学生からの希望があれば、講義に差支えない範囲で利用可能です。
37	施設	学生証での入退室管理の実施	→鍵を借りたり鍵を空けてもらったりするのではなく、学生証等で入退室が出来るようにしてほしい。	施設整備計画に合わせての改修を検討します。
38	施設	トイレ設備の改修	→トイレの改修。現在のトイレは在学生にとっても精神衛生上良くない。また、来校者にとっても汚いと感じる部分が多いので、印象が良くない。	施設整備計画に合わせての改修を検討します。
39	施設	東京都西部へのサテライトキャンパス設置 (南大沢キャンパス、都庁舎等)	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都西部へサテライト設備の設置 →本校舎が品川、サテライトが秋葉原と、いずれも東京都東部に寄っていることから、東京都西部にも配慮したサテライトがあっても良いのではないか。ただ、賃借料や設備等コストがかかるため、首都大学東京の南大沢キャンパス、または東京都西部からの交通の利便性が高い新宿の東京都庁舎にサテライトキャンパスがあればよいのではないかと思われる。東京都庁舎には首都大学東京の大学院ビジネススクールのサテライトキャンパスがあり、これは現役学生のメリットだけではなく、より多くの学生を募りたい大学院側のメリットにもなると考えられる。 	多摩地区への設置については、ニーズ、費用対効果等を踏まえ、総合的に検討していきます。
40	事務局	留学生向け相談窓口の設置 (主に中国語での会話が可能な窓口の設置)	<p>(4) 留学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語(主に中国語)が話せる職員や相談窓口の設置 →就職活動や今後の生活に不安を抱く人がいる。 	設置を検討します。
41	事務局	学生からの要望手続き等を明確にしてほしい。	<p>(8) 要望の特性毎にどの組織が主管で処理するか、またどういうフィードバックがなされるのかわかるような資料の製作</p> <p>Ex、「苫小牧工業高等専門学校」様の要望に関する手続きの流れとフィードバックの方法 http://www.tomakomai-ct.ac.jp/campus_life/youbou.pdf</p>	ワンストップの窓口(例えば目安箱等)の設置を検討します。